



水沢小学校
水沢ウォーキング・デイ
(12ページ参照)



西川町 議会だより

2010.7.15

73

- ・小川町政初議会 2
- ・6月定例会 3
- ・一般質問 4~8
- ・議会のうごき 9~11
- ・「究める・人」シリーズ No.13 12

発行 山形県西川町議会

小川町政 初議会

重点政策6本柱を表明

第1回臨時会

5月7日、平成22年第1回臨時会を開き、4月20日に就任した小川一博町長が重点政策を表明しました。

また、町税条例など2件の条例の一部改正および平成21年度一般会計補正予算の専決処分を全員賛成で承認し、国民健康保険税条例の一部改正の専決処分を賛成多数（賛成8人、反対1人）で承認しました。さらに、光ファイバー敷設工事請負契約の締結および特別職の職員の給与条例の一部改正の2議案を全員賛成で原案のとおり可決しました。

議案の審議に先立ち、黒坂議長が「これまで歴代の町長が築いてこられた西川町を、豊かな行政経験を積み重ねてきた小川町長が引き継がれ、さらに発展させるためにがんばっていただきたい」と就任を祝福しました。

小川町長は「西川町を元気に、若者に夢を、女性の声を町政に、町民参加のまちづくり」を政治姿勢に掲げ、次の6つの重点政策を表明しました。

農林業、観光、商工業などの産業振興による雇用の場の創出

生産、消費、販路拡大、地産地消や一次、二次、三次の産業間連携などの産業振興による所得の向上をめざした具体的な支援策の展開

積極的な子育て支援、若者支援

子育て支援計画の策定、子育て支援医療の拡大、若者の住宅対策や積極的な結婚支援

西川小学校による全国に誇れる教育の実現

西川町を誇りに思い、知、徳、体に優れた情緒豊かな子どもたちを育てるために、安全面には十分に配慮し、本町の豊かな自然と調和した全国にも例のない本町独自の小中一貫教育の実現

町立病院、介護、福祉施策の充実

町立病院の医師を含めた医療従事者の確保、高度医療のための設備整備、認知症介護や在宅介護、地域での支えあいやその支援

融雪、消雪、除雪など総合的な雪対策の強化

通勤、通学のための町道や歩道の早期除雪の充実、流雪溝の整備、高齢者のための支援の実

各地区、団体と最低年1回の座談会の実施

現場の率直な意見を聴きながら町民に直結した政策の展開

◆**リストラを受けた場合の国民健康保険税を軽減**

国民健康保険税は前年の所得に対して課税されますが、平成21年3月31日以後にリストラを受けた場合、最長2年間、前年の給与所得を100分の30とみなして課税されるようになります。

◆**光ファイバー敷設工事始まる**

インターネットの配線や大井沢地区の自主共聴への一部配線、小山および姥沢地区の携帯電話の配線のため、間沢川地区を除く町内全域に光ファイバーを敷設する工事請負契約の締結について、次のとおり決まりました。
金額 2億8560万円
相手方 東日本電信電話(株)山形支店(山形市本町一丁目7番54号)

◆**特別職の給与を削減**

平成22年度、次のとおり削減することが決まりました。

町長 月額16万4千円
副町長 月額6万3500円
教育長 月額2万8750円



白熱した論戦

重点政策6本柱に
議論が集中

第2回定例会

6月9日から11日までの3日間、平成22年第2回定例会を開き、請願2件を全員賛成で採択し、議員が提出した2件の意見書を全員賛成で可決しました。また、町長が提出した西川小学校新築工事の契約金額の変更の議案を原案のとおり可決し、条例案2件を全員賛成で原案のとおり可決しました。さらに、1億5104万円を追加し、総額を51億8104万円とする一般会計補正予算案など、補正予算案4件を全員賛成で原案のとおり可決しました。

定例会ではこのほか、町が資本金の2分の1以上を出資している株式会社2社の経営状況など5件の報告がありました。

一般質問では、5人の議員が町の政治・行政について町長の施政方針をただし、5月7日の臨時会で町長が表明した重点政策6本柱に議論が集中しました。

請願採択

◆**口蹄疫にかかる万全の危機管理を求める意見書提出に関する請願**

◆**主食用米の緊急政府買い入れ等需給調整対策の実施を求める意見書提出に関する請願**

提出者

さがえ西村山農業協同組合

代表理事組合長 古沢 明

さがえ西村山農協農政対策協議会

会長 古沢 明

紹介議員 宮林 昌弘

株式会社の経営状況

◆**西川町総合開発株**

(第19期、平成21年4月1日

～22年3月31日)

4年ぶりに黒字

当期の売上高は5億4225万円で前期比3%減、経常利益は102万円、税引き後の純利益は84万円。

経済の低迷の影響で売上高は減少しましたが、地道な販売活動や経費の効果的な節減により、4年ぶりに黒字に転じました。

◆**株米月山**

(第4期、平成21年4月1日

～22年3月31日)

赤字幅を縮少

当期の売上高は3458万円
で前期比8.4%減、経常損失
および税引き後の純損失は
517万円。
消費者への直接販売などに
よ
り、前期対比で赤字幅を72%縮
少しています。

第2回 定例会 決まった おもなこと

◆**西川小学校新築工事請負額
3203万円増額**

西川小学校の校舎および体育館の新築工事の契約金額の変更が、建築工事は賛成多数(賛成6人、反対3人)で、電気および機械設備工事は全員賛成で決まりました。地盤改良工事や杉板フローリングの変更、大黒柱の設置、構内監視カメラの設置などで3工事合わせて3202万7100円が増額され、14億9219万1750円になりました。完成は今年の11月です。

◆**小中学生の入院医療費が無料**

7月1日から、小学校就学前の子どもの通院および入院の医療費の完全無料化に加えて、小

中学生の入院医療費が無料になりました。

◆**肺炎球菌ワクチン予防接種料
3千円助成**

70歳以上の方を対象に3千円助成します。

本町議会では、平成21年12月定例会で肺炎球菌ワクチンへの助成の請願を採択していました。

◆**住宅用火災警報器を無償配付**

75歳以上の老人のみ世帯で住宅用火災警報器が未設置の世帯に無償配付します。
住宅用火災警報器は、平成23年5月31日まで全戸設置が義務化されています。

◆**除雪機械などの購入や橋梁補修などを実施**

国の社会資本整備総合交付金で本年度、おもに次の事業を行います。

☆除雪機械(ドーザ)、町宮ハス(29人乗り)各1台購入

☆綱取橋(綱取)補修

☆町道久保中沢線(吉川)凍雪害防止工事(完成は平成23年度)

町長退職金の額と特別職および一般職の 職員の退職金制度への負担は

町長…本人負担はなく、町負担金、積立金の財産収入を充てています



答弁する小川町長



松田昌一議員

先の町長選挙で、対立候補の松田さんは、目玉公約として退職金廃止を唱えましたが、小川陣営からは「退職金制度があり町の財政負担は少ない」との反論がありました。

予算書および決算書には、退職金という項目はありませんが、市町村退職手当組合負担金という項目があります。町長、副町長、教育長、一般職員にかかる町負担額と受給額等制度の内容は、

また、この制度のメリットは、

地方公務員法および地方自治法では、給料、手当等は条例で定めると規定されています。県内の市町村では、地方自治法にもとづき山形県市町村職員退職手当組合を設置、退職手当支給条例を制定し、毎年負担金を納付し基金を積み立て、退職する職員に退職手当を支給しています。

三役、一般職員

ともに退職手当組合で運用されており、平成22年度の本町の負担額は、予算ベースで1億7600万円です。

制度の長所は、退職者数の多少にかかわらず一定の負担金により退職金を支給できることです。

近松前町長、一般職員としての小川町長の退職金の額は、

町長は、減額前の給料月額82万円に支給率100分の56・7と勤続月数48か月を乗じた額、約2200万円。私は、最終給料月額に59・28か月を乗じた額など、約2700万円です。

退職金制度への本人負担や国県等の他機関からの助成はありますか。

退職手当は給与の一部と考えられていますので本人負担はありません。また、退職手当組合の収入は各市町村の負担金とそ



役場本庁舎

の積立基金からの財産収入などで、他からの助成はありません。

森林組合に勤めた私の退職金は、途中、合併による退職もあり1200万円でした。今春、退職した7人の方の退職金の総額は、

勤続年数、最終給料月額などにより個人差がありますが、支給額は、約1億8千万円です。

選挙公約実現とこれからのまちづくりを どう進めますか

町長…重点政策は、地域座談会で町民の声を聴きながら、着実に進めます



宮林昌弘 議員



月山山菜市場

小川町長が選挙公約で掲げた六つの重点政策から次の三点について質問します。

「農林業、観光、商工業の振興のために雇用の場づくり」として近年、総合産業化を推進していますが、その具体策と推進策をどう進めますか。また、産業振興をはかるためには、産業振興課を農林課と商工観光課に分離し、戦略的に小川カラーを出しては。

総合産業化は農林業生産が基本であり、生産量向上事業に加え、廃校利活用による農産加工、流通事業者・小売店等・町内起業業者や女性グループにも呼びかけ、事業を展開して就労を確保し、地場産品愛用運動や観光交流受入体制の整備を推進します。商工観光部門に主幹を配置し、農林と商工観光部門を強化しましたが、さらに推進体制を検討

します。

「子育て支援、若者支援」で、特に若者の結婚支援策としてブライダルサポート事業を推進していますが、事業の予算額が平成22年度は、報償費1万円、旅費2千円、需用費3万円、合計4万2千円と少なく、10人の推進員がいますが、少ない予算で活動できないのでは。

また、結婚相談所は、看板倒れになっていませんか。若者定住対策として住宅団地造成も必要ですが、まずは結婚支援に重点を置き定住を促進すべきでは。

結婚支援事業は、推進員10人を委嘱、相談窓口を開設し、仲人活動を進めています。推進員は研修会等に参加、結婚支援講座も開催し、「やまがた出会いセンター」のイベント配信事業への登録促進もしています。今後、他団体へも協力を要請し、他市町村とも連携しながら、出会いの場を検討します。予算は、企画がまとまれば補正等で対応します。

「福祉施策の充実」で、特に一人暮らし高齢者の安全、安心

な暮らしを確保するための高齢者福祉施策をどう進めますか。また、本道寺および大井沢地区には商店が1件もなくなり、買物に不自由していますが、買物弱者対策をどう進めますか。

民生児童委員や福祉町内会の見守りや訪問等で安心安全の確保をはかり、緊急通報システムによる夜間の安全確保にも対応しています。

買物対策では、シルバーファミリーサポート事業を行っていますが、利用者が少ない状況です。地域座談会等でもご意見をお聴きし、ニーズ把握と光ファイバーの有効利用を含めた福祉対策を検討します。



産業振興課

観光での産業振興策は

町長…町内の資源を活用し、情報発信や誘客に努めます



丸山薫記念館 (ふるさとめぐり学習事業)



池上博 議員

4月29日、鶴岡市に開館した藤沢周平記念館では、開館1週間で9200人の来館があり、魅力的な作家であったことがうかがわれます。本町を素通りされないようにして、観光の振興につなげることが大切であると考えますが。

旅行志向が小グループ等の目的地直行型に変化し、魅力ある着地型旅行商品の提供が課題です。町内の資源を活用し、観光客が回遊できるルート作りとして、丸山薫記念館

や出羽三山信仰、六十里越街道、山菜料理などを活用しながら、関係する多くの施設や団体と一体となった取り組みと、施設整備や事業内容の充実、効果的な情報発信に努めます。

本町には、丸山薫記念館や出羽三山信仰、六十里越街道、豊富な山菜料理など観光に取り込める素地は十

分あります。道の駅に丸山薫の小展示コーナーを設けたり、六十里越街道の名所史跡等を紹介するなどして旅人の郷愁を誘うことを考えては。

丸山薫は四季派を代表する詩人で町が誇れるものであり、観光面にも活用します。道の駅は狭く展示物設置は困難ですが、観光案内人を通してこれらを紹介します。

5月7日、村山地方7市7町観光圏推進協議会の総会がありました。この総会の意義をどう捉えていますか。

観光圏は観光地の魅力向上をはかり、圏域内を線で結び、圏域内に宿泊しながらの滞在を促進する目的です。出羽三山信仰コース、二十四節気の食づくり、月山志津温泉での温泉と健康を題材にした事業を考え、「日本海さらさら羽越観光圏」とも連携し誘客促進に努めます。

県では、豊富な経験を県政に役立てるために知恵袋委員会を

六十里越街道を歩く



設置しました。小川町長は町民参加型町政を公約に掲げていますが、観光を含めた主要事業を推進するために県の知恵袋委員会を参考にすべきでは。

観光面に限らず、高齢者のみなさんの豊かな経験や知識は本町のまちづくりに必要不可欠です。本年度は高齢者のみなさんも含めて地域や各種団体からご意見をいただきますが、高齢者のみなさんの知恵や経験もまちづくりに活かせるよう検討します。

西川町を元気に、 若者に夢を与える具体策とは

町長…将来の夢とビジョンを共有したまちづくりをめざします



井場 栄治 議員



西川中学校吹奏楽部定期演奏会

町が元気に、若者が夢をもてる施策とは

町民が元気に、若者に夢を与え、閉塞感を打破し、活力あるまちになる施策は。

町民が元気になるには、町の将来や暮らし、産業などについて、町民や地域とともに考え、施策に反映し、将来ビジョンをみんなで共有し、みんなで元気な町をつくることです。若者の夢も同じです。行政の一方的な夢でなく、町民と作り上げるビジョンです。

総合産業化の具体化は

目に見える総合産業化を推進するために、一次産業、二次産業、三次産業をどう結びつけて進めていきますか。

生産、消費、販路拡大とともに、地産地消や一次から三次の

産業間連携など産業振興による所得向上をめざした支援策や山菜加工にも取り組み、所得を得られ、雇用も創出できるような町民といっしょに考え、立ち上げるよう研修や人材育成の場も検討します。

町政には継続性が必要なのは

重要な施策や事業は、町長が交代しても町政の継続性を重視すべきと考えますが。

第5次総合計画に沿って町政を進めまですので、総合産業化、子育ておよび若者支援、保健医療福祉対策、雪対策など、基本的には重要事業や施策を継続しますが、その進め方は十分検討し、町民にもご理解いただきたいうえで実行すべきと考えます。

拠点地形成実施事業を見直す理由は

拠点地形成実施事業

業を見直し、一期、二期にわけて、二期は一期の進捗状況をみて対応するとしています。見直した理由は。

拠点地形成の住宅団地造成事業は、もっと町民のご意見を聴きながら、若者の定住のための分譲面積や価格、分譲時の特典など十分検討しますが、町民アンケートでの町民の意向や住宅建築状況、経済情勢、若者の雇用状況などを踏まえ検討します。



宅地造成予定地

町民が元気になるための 具体的施策は

町長…まちづくり条例の制定を検討し対応していきます



にしかわ保育園プール開き



渋谷 雄三郎 議員

公約実現のための施策は

昨年9月に実施された町民アンケートの結果を全面公開すべきでは。

また、若者に、雇用や子育て、住環境整備などで夢をもってもらえるために、子どもの医療費無料の年齢引き上げをどうしますか。

さらに、住環境整備のために、当面の施策として雇用促進住宅睦合宿舎を購入すべきでは。

募型の町民まちづくり委員会などを考えていますか。

自治協議会やまちづくり委員会などは、まちづくり条例を制定して取り組んでいる多くの先進事例がありますので、これらも参考に検討します。女性の声ですが、意見交換の場を設け、委員会や審議会などは3割以上の女性参加を目標に努めます。

国民健康保険税を減税すべきでは

応能・応益負担のある国民健康保険税の重税感をどう受け止めていますか。

また、滞納状況と、その原因および対策は。

重税感は、理解しますが、定められたルールでの算定であり、国の制度改正を注視していきます。

滞納繰越額は1044万7千円の見込みです。原因は経営不振、生活管理力の欠如などと分析しており、対策は、滞納対策会議と生活再建検討会議を開催して対応しています。



雇用促進住宅睦合宿舎

2億3千万円の多額の基金を活用して国民健康保険税を減税すべきでは。

また、「庄内町国民健康保険一部負担金減免及び徴収猶予取扱要綱」をどう受け止めていますか。

基金は、円滑な保険給付と保健事業を行なうためのものです。県も税率引き下げの基金取り崩しはできないという解釈です。現行税率の据え置きが、国民健康保険運営の安定、継続性のために最良の選択と考えます。

庄内町の要綱は、調査研究し要綱制定に努力します。

町民参加のまちづくりは

女性の声を町政に、町民参加のまちづくりを進めるために、各種団体や集落の座談会を開催するほか、自治協議会や完全公

議会のうごき



常任委員会

総務厚生常任委員会

■ 6月9日

◆ 所管事務調査計画

ケアハイツ西川の決算、業務内容、今後の課題について調査することを決定しました。

■ 6月21日

◆ ケアハイツ西川の決算、業務内容、今後の課題調査

特養ホームへの変更が妥当では

ケアハイツ西川の決算、業務内容、今後の課題について、ケアハイツ西川および健康福祉課から説明を受けました。

特に6月9日の議会全員協議会で町から報告があった介護老人保健施設の常勤医師不在（10ページ参照）について、ケアハイツ西川からは「町といっしょになって確保に努めてきたが、状況は厳しい。介護老人保健施設の扱いについては、町の介護

保険計画に沿うことになる」との説明がありました。

意見交換では、「早期に結論を得なければならぬことであり、介護老人保健施設に入所している方の8割以上の方が特別養護老人ホームの待機者であることから、特別養護老人ホームに変更せざるを得ないのではないか」などの意見が出されました。



産業建設常任委員会

■ 6月9日

◆ 請願の審査

第2回定例会で付託された次の請願を審査し、全員賛成で採択しました。

「口蹄疫にかかる万全の危機管理を求める意見書提出に関する請願」

「主食用米の緊急政府買い入れ等需給調整対策の実施を求める意見書提出に関する請願」

◆ 所管事務調査計画

8月に総合産業化の推進について調査することを決定しました。

広報公聴常任委員会

◆ 西川町議会だより（73号）の編集

■ 6月10日（編集会議）

■ 6月24日（レイアウト）

■ 7月1日（初校）

■ 7月5日（二校）
■ 7月9日（三校）

議会運営委員会

■ 4月30日

第1回臨時会（5月7日）の運営について決定しました。

■ 5月19日

議会活性化のために、議会議員研修会を開催し、また、議会報告会（仮称）の開催に向け、すでに開催している議会を調査するなどして準備を進めていくことなどを決定しました。

これを受けて、6月15日には、議会議員研修会を開催（11ページ参照）し、6月23日には、広報公聴常任委員4人が議会報告会を開催している庄内町で調査してきました。

■ 5月31日

第2回定例会（6月9日～11日）の運営について決定しました。

議会のうごき



朝目山開き

議会全員協議会

■6月9日

◆二期にわけて宅地造成の意向 一期の分譲は19戸分を計画

役場庁舎南側の町道間沢海味線沿線に計画されている宅地造成事業（拠点地形成事業）について町から説明がありました。

町では、第5次総合計画に掲げる定住人口の維持確保、特に若い世代が定着できるようにするために、一期、二期にわけて宅地の造成、分譲を計画しています。

一期では、一般町営住宅を2LDKおよび3LDK合わせて10戸、3LDKの長期貸付住宅を5棟、高齢者住宅を長屋方式で6戸、それぞれ計画しているほか、分譲分として、約110〜170坪で19戸分が計画されています。

町では今後、分譲の条件や制度の検討なども含め、都市計画審議会などで検討しながら進めていくとしています。

■7月5日

◆一般住宅の耐震改修促進計画 を策定

耐震改修促進計画について町から説明がありました。

国では、平成7年1月に発生した阪神淡路大震災の被害を受けて同年、建築物の耐震改修の促進に関する法律を制定し、既存建築物等の耐震向上策、耐震診断、改修等を総合的、計画的に促進しています。

町でも、一般住宅の耐震診断を進め、さらには改修をはかるために耐震改修促進計画を作りました。

町の説明では、平成17年度の固定資産台帳や、国や県の耐震性の推定値から推測すると、現在の耐震基準が適用された昭和56年以前に建築された住宅1290戸のうち約7割が耐震性がないと考えられます。

町では今後、平成23年4月までに、耐震診断や、診断の結果、改修が必要な場合の工事費の助成などを検討し、お知らせなどで町民に周知していくとしています。

◆グラウンドゴルフ場を整備 場所は検討中

グラウンドゴルフ場の整備について町から説明がありました。

平成21年10月、町グラウンドゴルフ協会から町に対して、芝によるグラウンドゴルフ場3面の整備の請願がありました。

町では、同協会の会員が約70人おり、全国では19万人を超え、会員の98%は60歳以上の方であることから、シニアスポーツとして、また高齢者の交流の場として競技人口が年々増加しているグラウンドゴルフ場の整備は、高齢者が生き生きと暮らすまちづくりのためにも重要であると考えています。

グラウンドゴルフ場の標準コースは、15m×2コース、25m×2コース、30m×2コース、50m×2コースの距離を確保するほかに、同じ距離のコースが連続しないこと、安全に配慮されていることなどが欠かせません。

町では、財団法人日本宝くじ協会の助成金でグラウンドゴルフ場を整備する計画ですが、場所については検討中としています。

■6月9日、7月5日

◆ケアハイツ西川の老健施設を 特養ホームへ変更

ケアハイツ西川の介護老人保健施設の常勤医師であった山ノ内南謝医師が、平成21年11月に亡くなったことに伴う運営の検討について町から報告がありました。

6月9日の全員協議会では、配置が義務化されている医師の確保に努めてきたが確保するまでには至らず、医師の確保は難しいと判断しているとの説明があり、町では今後、介護老人保



町民グラウンドゴルフ交流大会

議会のうごき



第72回 睦合小学校学童相撲大会

健施設を特別養護老人ホームに変更する方向で、慎重かつ早急に決断するとしていました。さらに、現在の基準で特別養護老人ホームに一本化した場合、ベッド数92床のほか16床のショートステイを見込んでおり、これまでの介護老人保健施設の機能をショートステイで一定程度補うことができるとの説明もありました。

その後、6月21日には、本町議会の総務厚生常任委員会がケアハイツ西川を調査（9ページ参照）し、町では県と協議してきました。

それらを受けて7月5日の全員協議会では、町から、特別養護老人ホームに変更し安定運営に努めたいとの説明がありました。

7月中旬に、町では介護保険計画の変更手続きを行い、ケアハイツ西川では、施設変更届や建築確認申請を行うこととしています。そして、各種手続き完了後、改修工事が始まります。

町およびケアハイツ西川では、入所者および家族の方に説明し了解を得ながら工事を進めていくとしています。

町村議会広報研修会

県町村議会議長会主催の第27回町村議会広報研修会が5月26日、山形国際交流プラザ（ピックウイング）で開催され、広報公聴常任委員4人が参加しました。

研修会では、議会は秘密会を除いてすべて公開しなければならず、住民の知る権利、議会の知らせる権利を尊重して、町債や公債費などの行政用語は町の借入金や借入金返済などの平易な日常語で表記するなどして簡潔でわかりやすい文章の議会広報紙を作成することなど編集のポイントについて話がありました。

また、本町議会の広報紙の評価を受けた結果、昨年の評価を反映し改善が見られ、簡潔で正確な表現で読みやすい記事文になっており、特に、一般質問は具体的で力があり、究める人シリーズも好企画である反面、見出しにもうひと息工夫を加えて迫力がほしいなどで、4段階評価で2番目の評価（よくできている）でした。



町村議会広報研修会

議会議員研修会

6月15日、役場で議会議員研修会を開催しました。

研修会では、議会活性化方策に対応した議会運営について、県町村議会議長会の武田裕樹事務局長から講演していただきました。

武田事務局長は、議会活性化の方策の一環として、議会の理念や議会のあり方などを定めた議会基本条例や、定例会の会期を1年として必要に応じて本会議や委員会を開ける通年議会について、全国状況なども紹介しながら、「議会活性化のためには過去の慣例にとらわれない柔軟な運営が欠かせない。住民



議会議員研修会

西村山地方議長協議会 協会議員研修会

西村山地方議長協議会主催の議会議員研修会が6月30日、寒河江市で開催され、全議員が参加しました。

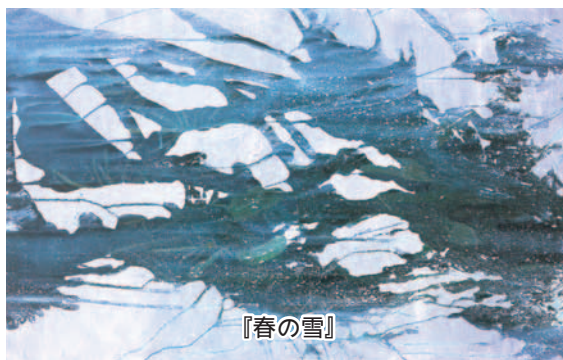
研修会では、議会基本条例と議会改革について全国市議会議長会の職員から講演がありました。

と向き合い情報公開に努めながら、議会に対する意識を高めていただくために、議会報告会を開催している議会もある。活性化はやらなければ始まらない」と話されました。

ズガ、工作

7月16日～19日 個展を開催

布施美津子さん (64歳)
(上間沢町内会)



『春の雪』



7月16日
から19日ま
での4日間、
山形美術館
で個展を開

きます。約50点のズガや工作を
展示しますが、そのなかには、
小学5年と2年の孫が保育園児
のときに描いたズガや、丸山薫
少年少女文学賞で入選させてい
ただいた詩もありです。孫とい
つしよの個展は、長年の念願で
開催を目前にしてワクワクして
います。

生まれは、現在の南陽市宮内
です。幼い頃は、遊びや買い物
で山形市にすら容易に行くこと
ができない時代でした。でも、
宮内町(当時)の文化祭には必
ず連れて行ってもらいました。
それが、ズガや工作の世界への
入り口だったのかもしれない。
寒河江市に来て、住み込みで
洋裁の仕事をしているときに主
人と知り合い、西川町で生活す
るようになりました。結婚する
とき父親に「着物はいらないか
ら絵を買って」と無茶を言って
買ってもらいました。つらいと
きなど、その絵を見て心が癒さ
れたものです。親心を感じまし
た。

世間には似たもの夫婦もいま
すが、主人は農業一筋で、ズガ
工作にはまったく興味がありま
せん。主人が寝るのを見計らっ
て、夜中にズガを描き、粘土を
こねたものです。

平成14年、県総合美術展覧会
の日本画部門において、県展覧
(作品は上の写真)をいただいた
のが一番の思い出です。「完
全な素人だが、素人ではこま
ではできない。気持ちのきれいな
人だね」という審査員の評価
は、生涯忘れることができない
と思います。

ズガや工作に限らず、ひらめ
き、時代を先走ることが大切な
のではないのでしょうか。まして
やこれからの時代はなおさら。
そのためには、若いときの勉強
と経験が大切だと考えています。
体力と気力の限界を感じるよう
になったいま、痛感しています。
家庭を顧みたととき、これから
成長していく2人の孫がいます。
息子や嫁は孫のために一生懸命
働かなければなりません。そし
て自分には、孫を守る義務があ
ると考えています。
今回の個展で、ズガ、工作に
区切りをつけたいと思っています
です。

73号
の表紙

子どもの笑い声が
地域に響く



5月21日、
水沢小学校
の水沢ウォ
ーキング・
デイ。
「子ども
たちの姿が
消えた」と
目を潤ませ

ながら話された方の声に応え、
地域を愛する子どもを育てよう
と、今年初めて、全校児童が水
沢地区を歩きました。
水沢小学校は明治7年の創立。
校章は、水沢の「水」を背景に、
小学校の「小」の字を組み入れ大
空に飛ばたく子らの発展を表し
たもので、昭和41年に制定され
ました。

編集後記

足踏みしながら訪れた桜花爛漫
の春も、たちまち花吹雪になり、
萌芽が若葉となり、いまでは青葉
の候となりました。
むかしと異なり、現代の情報化
社会のなかで時間は超特急で過ぎ
てしまいます。

早くも7月中旬になりました
が、小川新町長が就任して初めて
の6月定例会の様子をお伝えしま
す。一般質問では、傍聴席も満席
で、新しい町政に関心が多く寄せ
られていることがうかがえます。
議会だよりも毎年クリニックを
受け、改善点を指摘いただき、多
くの方から親しまれ読んでいただ
けるように努めています。みなさ
んから読後感想を寄せていただき
たいものです。

(宮林 昌弘)

議会へのおさそい
皆さん傍聴して
みませんか
次回定例会は
9月です

《発行・編集責任者》
議長 黒坂 久一
《編集委員》
委員長 宮林 昌弘
副委員長 古澤 俊一
委員 青山 知教
松田 昌一